

衆議院経済産業委員会ニュース

平成 25. 9. 27 第 184 回国会第 2 号（閉会中審査）

9 月 27 日（金）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 経済産業の基本施策に関する件

- ・東京電力福島第一原子力発電所における汚染水の状況等の調査のため、福島県において視察を行った委員を代表して、富田委員長から報告を聴取しました。
- ・参考人から発言がありました。
- ・参考人に対し質疑を行いました。

（参考人）東京電力株式会社代表執行役社長

廣瀬直己君

（質疑者及び主な質疑内容）

鈴木淳司君（自民）

- ・陸側遮水壁の建設に関しては、2 年前に検討されて断念しているようだが、その背景について説明を伺いたい。
- ・汚染水対策はなんとしても成功しなくてはならない問題であるが、東京電力が実施すべき事項、東京電力が実施できる事項及び国に期待する事項について率直な意見を伺いたい。

江田康幸君（公明）

- ・当初から脆弱性を指摘されていた「フランジ型」を貯蔵タンクに採用した理由及び評価について説明を伺いたい。
- ・今後の流入地下水対策を講じていく上では、データの正確性が求められるところ、建屋への流入地下水量の推計根拠及び評価方法に関して、参考人の見解を伺いたい。

馬淵澄夫君（民主）

- ・2011 年 5 月上旬に実施された地下水の浸透流解析の結果を受けて東京電力では地下水汚染の可能性を認識していたのではないか。
- ・技術的難易度が高く遮水効果も万全とは言い難い凍土方式の遮水壁と併せて、在来工法で技術的難易度の高くない粘土方式の遮水壁建設を国費の投入によらずとも実現していくという東京電力の決意を伺いたい。

今井雅人君（維新）

- ・汚染水対策が遅れた理由について、手が回らなかったのかで対応できなかったと述べられていたが、東京電力において重大な問題であるという認識が不足していたのではないのか。
- ・汚染水の港湾内への流出の公表が 7 月 22 日になったことに関して、政治的な配慮や行政からの指示はなかったのか。

三谷英弘君（みんな）

- ・本日東京電力が安全審査を申請した柏崎刈羽原発について、東京電力側が表明した 2 つ目のフィルター付きベントが設置されなかった場合の審査通過の可能性及び再稼働の可否について参考人はどのように認識しているか。
- ・損害賠償等の公的責任を果たす要請と企業利益の最大化の要請が矛盾する場合、上場企業の経営者としていずれを優先するのか。

塩川鉄也君（共産）

- ・福島第一原発の地下の 2 つの透水層を伝って汚染水が外洋に流出している可能性について東京電力はどのように把握しているのか。
- ・国費で新設することが表明されている多核種除去装置（ALPS）については、事故に責任のない国民の負担ではなく経営責任、株主責任やメガバンクの責任で実施すべきではないか。